

みんなで取り組む生き物さがし報告書 2020

春日部市役所 環境政策課 環境政策担当

はじめに

春日部市では「みんなで取り組む生き物さがし」を実施しています。皆様からお寄せいただいたデータにより、長期的な調査を行うことで春日部市内の環境の状況や変化を知ること、生き物さがしに参加することより身近な生き物に触れる機会をつくることを目的としています。

令和2年度は、昨年度(旧みんなで取り組む生き物調査)に調査対象としていた「チョウ」に加え、「トンボ」「セミ」「その他(季節を感じた動植物等)」を追加し、より多くの生き物発見情報をいただくこととしました。また、春日部市公式地域ポータルサイト「かすかべオラナビ」により、インターネット上でいつでもどこでも生き物発見情報の報告や閲覧ができるようになりました。また、希望される方は、随時、調査員登録が可能です。

この報告書は、令和元年度調査終了日(令和元年12月27日)から令和2年12月29日までの調査報告をまとめたものです。

調査概要

自宅の庭や公園、河川敷や田んぼのまわり等、身近なところで調査対象の生き物をさがし、発見したら「かすかべオラナビ」へ投稿いただく方法、または調査票(紙面)による提出により実施しました。

今年度は「チョウ」「トンボ」「セミ」「その他(季節を感じた動植物等)」を調査対象とし、様々な種類の生き物たちがどんな場所に暮らしていたか、周囲の自然環境等を含めて観察することとしました。

多くの種類の生き物とその周りの環境を観察することで、身近な自然や生き物同士のつながり(生物多様性)を知る一歩となります。

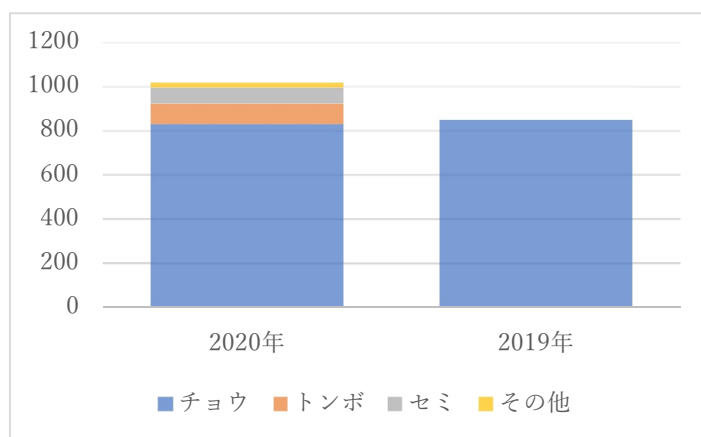


調査結果

令和2年12月29日時点での調査員登録者は77名、21名(調査員未登録の方を含む)の方に調査報告をいただきました。報告いただいた生き物発見情報は1,017件、調査対象の生き物別報告件数については次のとおりです。

なお、ここで提示する報告件数は、生き物の個体数ではなく、調査員の皆様に報告いただいた件数としており、複数の個体を発見した場合でも1件とし集計しています。また、絶滅の恐れのある生き物や貴重な種である等の理由から「かすかべオラナビ」上では非掲載としている報告も含まれます。

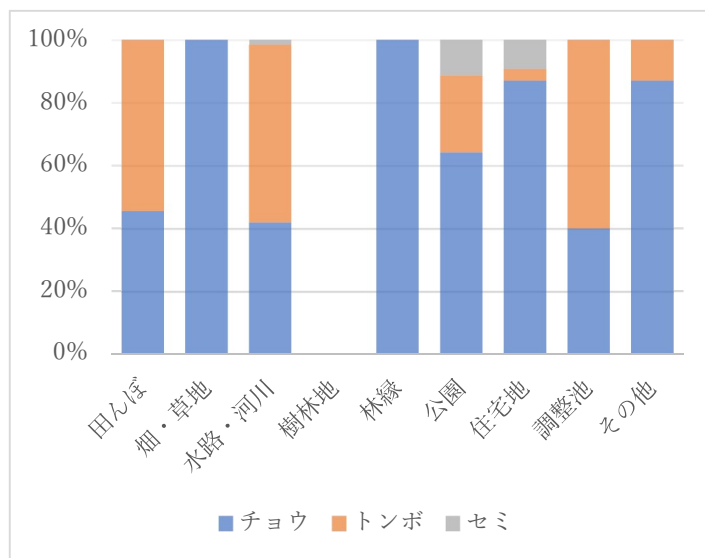
調査対象の生き物	報告件数
チョウ	829件
トンボ	92件
セミ	74件
その他	22件
合計	1,016件



今年度の調査では1,017件、生き物発見報告をいただきました。中でも昨年度と同様に調査対象であった「チョウ」の発見報告が最も多く829件でした。調査対象の生き物に「トンボ」「セミ」「その他(季節を感じた動植物等)」が追加になったことにより、昨年度と比較し報告件数全体が増加する結果となっています。

(1) 調査対象の生き物を発見した周囲の環境別で集計 (右図)

調査対象の生き物に応じ、発見される環境も大きく異なります。それぞれの生き物の食べ物や好む場所等の生態に応じて、それぞれに適した自然環境で生活していることが分かります。

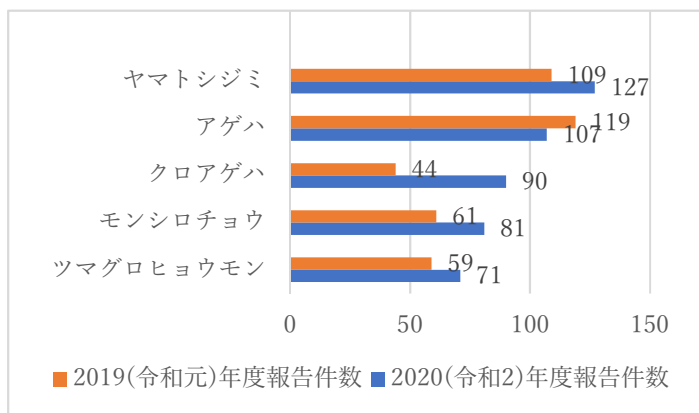


春日部市の自然環境を守ることが生き物たちを守ることにつながっていると言えるでしょう。

(2) 調査対象の生き物別報告件数

次のとおりです。個体そのものを発見できなかった報告については集計に含めないものとします。

【チョウ】

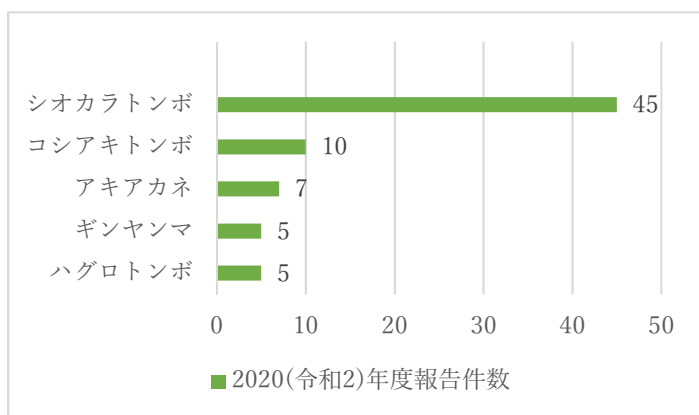


今年度報告いただいた「チョウ」42種の中で最も多く報告されたのは「ヤマトシジミ」で127件でした。昨年度と比較すると、「アゲハ」と「ヤマトシジミ」の報告数が入れ替わる結果となりました。

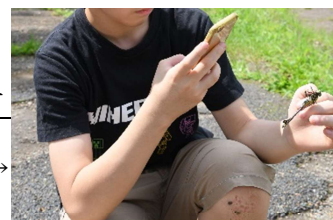


羽を休めるヤマトシジミ→

【トンボ】



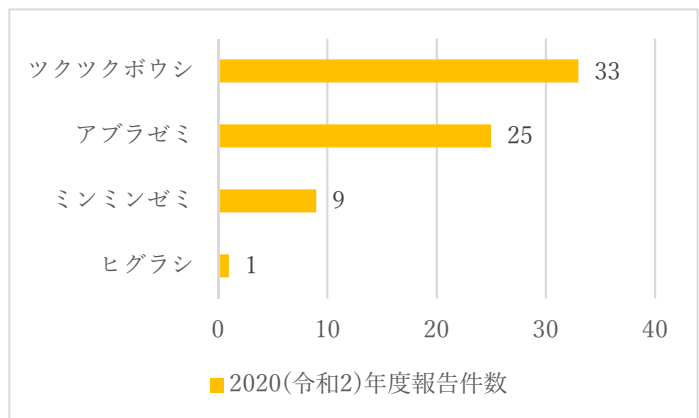
今年度報告いただいた「トンボ」16種の中で最も多く報告されたのは「シオカラトンボ」で45件でした。なお、「ムギワラトンボ」として報告されているメスの個体を含め45件報告されました。



かすかべオラナビを使って

シオカラトンボの発見報告をする様子→

【セミ】



今年度報告いただいた「セミ」4種の中で最も多く報告されたのは「ツクツクボウシ」で33件でした。「セミ」については、その身体的特徴から個体そのものを発見できないことも多く、鳴き声のみの報告もありました。



セミの代表格アブラゼミ→

【その他(季節を感じた動植物等)】

今年度は次のような報告の他、多くの報告がありました。

発見報告があったその他の生き物の例	
アカスジキンカンカメムシ	
ナナフシ	等



春日部市内で見つかった珍しい生き物たち

今年度の調査では、絶滅の恐れがある生き物等の発見情報もありました。



セセリチョウ科「オオチャバネセセリ」

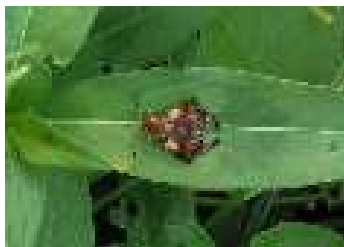
【準絶滅危惧 2 型 (埼玉県)】

タケ・ササ類の生える平地から山地の草地や河川敷等に生息する。1980 年代後半から徐々に個体数が減少し、2000 年以降は急減した。



カワセミ科「カワセミ」【地帯別絶滅危惧 (埼玉県)】

コバルトブルーの体に橙色の腹をしている。メスは嘴が赤い。河川や小沼等の水辺で観察できる。水質改善と共に都市の河川でも見られるようになった。



スカシバ科「アシナガモモブトスカシバ」

【準絶滅危惧 1 型 (埼玉県)、絶滅危惧 II 類 (環境省)】

幼虫はウリ科の植物の茎に虫こぶを作り成長する。体が茶色や白の毛で覆われ、後ろ足が非常に長い。

調査員登録及び調査報告をしていただいた皆様、ご協力ありがとうございました。「生き物さがし」は継続してまいりますので、引き続き調査報告をよろしくお願いたします。

また、絶滅の恐れがある生き物等を除く、全ての生き物さがしの投稿データは「生き物調査マップ」で公開されており、情報検索等も行えます。是非、ご活用ください。

参考文献

「埼玉県レッドデータブック動物編 2018(第 4 版)」埼玉県環境部みどり自然課

写真提供

調査員 No32 様、調査員 No46 様、調査員 No47 様、H・K 様、サンシャイン様